# B.LEAGUE × まちづくり

おすすめ
- ✓ スポーツ
- ✓ 都市計画
- ✓ 市民協働

行政課

## アリーナを核に 日常と非日常が交差するまちへ

三河安城交流拠点・第三世代アリーナ構想
シーホース三河

Keyword！ #コミュニティ #交流拠点

市民の声とまちの賑わいづくりを意識した **第三世代アリーナ構想**

民間主導でのアリーナ建設に **自治体・市民を巻き込み**、ホームタウン移転の機運を醸成

スポーツのみならず、**日常利用による交流拡大** へのアプローチを検討段階から議論

### 人が動く！

新アリーナ建設予定地は、
三河安城駅から徒歩3分。
施設敷地内だけでなく、
駅周辺も含めた地域を盛り上げることで、
新たな人流を生み出します。

### 地域が動く！

自在に入れ替えが可能な外周部分は、
店舗、交流の場としての利用も可能。
スポーツ観戦施設の枠を超えて、
地域の人々の手によって発展する
コミュニティアリーナに。

### 未来が動く！

B.LEAGUE PREMIER参入のためだけでなく、
地域全体の未来のために。
新アリーナプロジェクトの始動によって、
三河エリア全体が動き出し、結束して、
新たな未来へと加速します。

©B.LEAGUE

## 特徴

「見る・支える・集う・働く」が一体となる
第三世代アリーナとして、まちづくりと共鳴

### 民間主導による公共性重視の構想設計

シーホース三河が中心となりアリーナ構想を設計し、単なるクラブ施設ではなく市民の利活用を前提に据えた設計思想を持つ。設計段階から公共性を重視し、民設民営の限界を超えた都市型施設づくりを推進

### 365日利用を前提とした多機能・多用途空間の創出

コンコースの広さや多目的室の配置、アリーナ外部空間の活用も含めて日常的な使い勝手に配慮。地域住民の生活動線に組み込まれることを重視

### 開かれたまちのハブとしての地域共生機能

イベント、ワークショップ、地域の子どもたちの交流機能などを備える。単なるスポーツ施設ではなく、世代や目的を超えた人の流れを生み出す新しい都市装置として機能させることを目指す

### 実現までの課題・失敗談

1. **「アリーナ」そのものへの認知・理解度**
   アリーナ＝体育館という先入観、次世代アリーナに対する基礎知識の不足
2. **地域のためのアリーナへのアクション**
   民設民営から公共所有に移行する過程での合意形成・ステークホルダー理解
3. **まちづくりへの市民の巻き込み**
   特にクラブに興味がない市民をどのように巻き込んでいくのか

### B.CLUBが発揮するチカラ

**ヒトを動かすチカラ**
クラブ主導による市民イベントの開催
ブースターの積極的参加

**企業を巻き込むチカラ**
地元企業・スポンサー企業のリソース活用

**行政と共に突破するチカラ**
包括連携協定に基づく相互連携の実現

### 現時点での成果

1. **事業スキームの確定**
   日本初の民間所有地におけるスポーツ施設の負担付き寄附事業として、議会承認を取得
2. **ワークショップへの市民参加**
   多様な属性の市民が参加し、アリーナを知り、考える機会を提供
3. **新たな事業パートナーの醸成**
   アリーナを中心としたまちづくりへの共創パートナー、仲間づくりの実現

### ビジョンの仮説構築

**駅前地域の空洞化・施設不足・市民意見の反映不足などが課題**

- 駅周辺の拠点施設が少なく、日常的な交流の場が乏しい
- 子育て層や高齢者が気軽に集まれる場所が不足
- 開発計画に市民の視点が入りにくい構造

### ビジョンの構築・共有

**市民の声が反映された、地方都市型の交流型施設の実現**

- スポーツの稼働を高めるとともに、商業・教育等の地域交流の複合化拠点を目指す
- 地域のニーズをくみ取るべく、自治体・スポーツチームの協働による継続運営モデル
- 構想段階から市民を巻き込み、「自分事」として賑わいを考える仕組みづくり

### PoC

**行政とクラブが連携し、市民がアリーナを知り、考える場を設定**

- 「アリーナのつかい方」公開フォーラム開催
- 市民・行政・専門家混成のワークショップ設計
- 回遊性・災害・子育て等テーマ別議論

### 事業開発

**ワークショップから抽出したニーズを、施設検討や運営計画に反映**

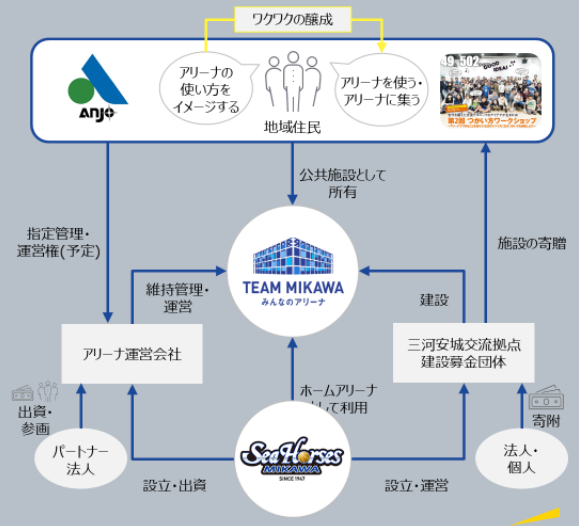
- 使い方、賑わいのイメージを踏まえ、様々な活動のプラットフォームとなるアリーナへ
- アリーナ敷地のみならず、三河安城駅周辺のエリア活用、都市開発へ展開
- 今後はまちづくりを担うコンソーシアムを組成し、産官学連携での共創モデルを構築

### 事業育成

**実装段階に向けた住民参加の継続と、運営への参画体制づくり**

- アリーナ開業、ホームタウン移転に向けた市民への意識醸成と検討の場創出を継続
- 運営モデルの具体化において、地域プレーヤーや専門家の更なる巻き込みを実施
- エンタメ興行に依存しない、「第三世代」アリーナとして、自主事業の具体化を推進

## 実施スキーム




**施設概要**
- **住所**：愛知県安城市三河安城町 1-11-2
- **所有者**：安城市
- **運営者**：アリーナ運営会社

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

## 「建設・所有・運営」を分離しつつ、民間主導・行政支援のバランスを取る持続可能な公民連携スキーム

シーホース三河株式会社
代表取締役社長 寺部 康弘

- 建設費は民間が負担し、完成後は市へ寄附、運営は新設会社が担うという「三分離モデル」を採用
- これにより、初期リスクを民間が引き受けつつ、公共施設としての地域還元性を担保し、長期的な行政支援・地域参画を実現

安城市役所
企画部 企画政策課 プロジェクト推進室

**負担付き寄附の議決**
安城市が負担付き寄附を受け入れる相当性について、専門家で構成される審議会を通じて調査・審議した上で、丁寧に議会説明を行い、議会承認を得た。

**民間主導での資金調達・建設**
三河安城交流拠点建設募金団体を通じて企業・個人寄附を募り、持続的な整備財源を確保。建設段階の自由度とスピードを確保した。

**運営分離による柔軟性と民間創意**
シーホース三河が中心となり、別法人の運営会社を設立予定。指定管理者兼運営権者（予定）となることでイベント企画・利用調整・収益最大化といった日々の運営判断を柔軟に行える体制を確立し、行政の意思決定スピードとの差を補完。

### 公民連携のポイント

- 人材連携
- 法制度・許認可
- 財源
- 土地の所有・管理
- 施設の所有・管理
- 運営方針
- 市民との合意形成
- リスク管理
- 広報・PR

**地域のシンボルとなり、市民が誇りを持てる場所に**
市民に愛されるアリーナとなるよう、計画段階から市民が関わることができる「つかいかたワークショップ」をクラブとともに開催し、市民のアリーナに対する意見、アリーナでしてもらいたい・やりたいアイデア、アリーナに期待すること等を集め、アリーナをジブンゴトとして考えることができる人が増えるよう努めました。

**公民連携の先進事例となることを目指して**
現在もスキーム検討の真っ最中ですが、負担付き寄附により公の施設となるため、地方自治法上の様々な制約や行政としてガバナンスを効かせなければならない面と、民間事業者にできる限りの裁量を与え、魅力ある施設を運営していくべきであるという相反する面でのジレンマがあり、最適解がどこにあるのか模索を続けています。